発行 一般社団法人 日本品質管理学会 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507 ホームページ:www.jsqc.org/ CONTENTS
1-トピックス 改善活動の要員・組織認証の国際規格 ISO 18404国際動向シンポジウムルポ

2-私の提言 組織本来の目的を達成する為に

2-ルポルタージュ 第393回関西事業所見学会ルポ

3-ルポルタージュ 第392回中部事業所見学会ルポ/2月入会者/行事案内

4-行事案内/事務局からのお知らせ/論文募集

改善活動の要員・組織認証の国際規格 ISO 18404国際動向シンポジウムルポ

一般財団法人日本規格協会 遠藤 智之

ISO 18404は、シックスシグマおよびリーンの実施に関わる要員と組織に対する要求事項を規定した国際規格である。英国がシックスシグマに関する認証を行うことを発表してから約1年が経過した。この間、英国王立統計学会(以下、RSS)は、英国認証機関認定審議会(以下、UKAS)と協力し、認証のパイロットプロジェクトに積極的に取り組んでいる。

英国の状況を明らかにし、日本国内へ情報共有することを目的とし、ISO 18404国際動向シンポジウムが2017年2月10日金、日本品質管理学会後援のもと日本規格協会主催で開催された。

シンポジウム開催にあたり、日本 規格協会 理事長 揖斐敏夫より開会 挨拶があり、「日本の品質管理とシッ クスシグマは別々の道を歩んできた が、英国では認証制度が動き始める などシックスシグマを取り巻く動き は刻々と変化している」とグローバ ルに対応していく必要性を述べた。 更にISO/TC 69国内委員会委員長の 尾島善一氏から、「ISO/TC 69で開発 される国際規格はここ10年にかけて 変化をしており、ISO 18404のように 認証に関わるようになってきている」 と1949年に設立されたISO/TC 69の 統計的方法に関する国際標準化の歴 史的経緯と状況の変化について説明 があった。

講演では、先ず初めにISO/TC 69/ SC 8議長である椿 広計氏より「イン トロダクション - 何が問題となりえるか - 」と題して、2015年に改訂されたISO 9001の要求事項とISO 18404がリンクし得る可能性について説明があった。椿氏は、「日本では、改善活動が歴史的な流れとともに組織されてきたが、そこへISO 18404という主要専任者の能力と適格性を規定した国際規格が生まれたということを勉強していかなければならない」という。

ISO/TC 69/SC 7日本代表エキスパートである石山一雄氏からは、「ISO/TC 69/SC 7の規格開発と日本の現状」と題して、ISO/TC 69/SC 7の規格開発、日本の現状の説明などがなされた。石山氏は、現在、海外企業との取引においてシックスシグマが要求されるケースが増えていることをふまえ、将来、ISO 18404が取引先から要求される可能性について言及された。更に「米国や中国は、この認証制度の動きを静観しているが、対応可能な体制はある。しかし日本は…」と、将来を見据えて、国内での体制構築の必要性を提起された。

続いて、ISO/TC 69/SC 7副議長であり、ISO 18404の開発をリードしていたChris Harris氏より「ISO 18404: 2015規格の概要」として、規格のコンセプトについて説明がなされた。 ISO 18404が産業界へもたらす価値について、Harris氏は、「能力を持った要員を明確にする点」、「(転職の場合など) 他社でも個人の力量を判断できる点」、「標準化したアプローチを

実施可能にする点」、「(力量維持のため) 定期的な見直しがある点」などを挙げた。

ISO 18404認証スキームの責任者であるTony Bendell氏からは、「ISO 18404認証パイロットプロジェクトの紹介」として、英国で開始する認証スキームの概要と今後の計画が説明された。

Bendell氏は、シックスシグマにつ いて、「世界でビックビジネスになっ てきている」と述べ、実践的にブラッ クベルト等の力量を評価している団 体、料金さえ支払えばベルトを取得 できる団体など、現在、世界各国で ベルト認証が氾濫し、要員の力量に ばらつきが出ているという。"世界で 統一した組織及び要員の評価基準が 存在しない"、これがISO 18404認証 が開発された背景とのこと。Bendell 氏によれば、要員認証は、RSS主導 のもと実施し、組織認証は、UKAS が主導のもと、認証機関の立会審査 などを通じて、2017年中にこの認証 制度に参加する認証機関を公表する 計画だという。ISO 18404の導入に関 心をもっている国は、英国外にもあ り、オーストラリア、インド、米国、 カナダ、ブラジルなどの団体からも 照会があるほか、今後、IAF加盟機関 とも連携を図っていく考えを示した。

講演後、満席となった会場からは、 活発な質疑が寄せられ、参加者の関 心の高さが伺えた。この認証を取り 巻く海外の動きには、今後も注視し ていく必要がある。

●私の提言●

組織本来の目的を達成する為に

一般財団法人 日本科学技術連盟 ISO審査登録センター 理事・上級経営管理者 **小野寺 将人**



2015年にQMS 及びEMSの規 格改正があり、 2017年度は移 行審査のピー クを迎える。 2015年版規格 改正は、認証 組織としても

正念場であり、認証機関にとっても正 念場である。認証機関は3年間と規定 された移行期間において"組織本来の 目的を達成する為に"移行審査を推し 進めていかなければならない。ただ単 に認証証を発行する実務的な行為では なく、組織の事業目的、事業継続・発 展に少しでも寄与する審査活動を実施 して行かなければならない。

2015年版改正の背景にはさまざまな問題があった。事業活動から乖離した、規格や審査に応えるだけのマネジメントシステムの構築や運用、組織の戦略的事業目的や社会の期待と乖離した、不適切な適用範囲の設定、認証を得たにも関わらず意図する成果が得られない実態、現場のスタッフの知らないところでの一部の関係者だけの構築・運用、サービス活動を考慮に入れない「製品」の狭義な捉え方による部分構築・運用、「環境」の狭義な捉え方による部分構築・運用、「環境」の狭義な捉え方による部分構築・運用、「環境」の狭義な捉え方による部分構築・運用、「環境」の狭義な捉え方による部分構築・運用、「環境」の狭義な捉え方による部分構築・運用、「環境」の狭義な捉え方による部分構築・運用、「環境」の狭義な捉え方による部分構築・運用等が考えられる。

認証機関として審査を通じて何が出

来るのか。年に1日から2日の審査でさまざまな問題に対応できるのか。あるマネジメントシステムの規格要求事項の逐条的確認だと、有効性の観点から、出来ることは少ないかもしれない。事業継続、事業発展を阻害する脆弱な問題の検出なら、短い審査日数でも出来ることが多いのではないか。脆弱な点を検出し、規格に結び付けてコメントする、今まで以上に審査員の力量が必要であり、その力量を担保するための認証機関のスタンスと活動が重要となる。

今こそ本気で有効性を追いかけなければ、組織の本来の目的達成に近づいていけない。組織は組織の事業目的を達成する為に効果を発揮するマネジメントシステムの構築・運用を目指し、認証機関は組織の事業目的を達成する為の第三者審査を目指さなければならない。

「マネジメントシステムの有効性」も 「審査の有効性」も組織の事業目的を達成する為に向かわなければならない。 社会的責任、説明責任を果たすために も審査の有効性を追求していきたい。

第393回関西 事業所見学会 ルポ

生産性向上および品質改善の取組み

平成29年2月7日(火第393回事業所見学会が、(株)イトーキ寝屋川工場(大阪府寝屋川市)にて開催された。標記のテーマのもと、総勢25名が参加し、自動車や機械製造と違ったオフィス家具のものづくりを大変興味深く見学させていただいた。

はじめに、寝屋川製造部部長の玉置様からご挨拶があり、続いて若いご担当の方から「品質」と「生産性向上」について、それぞれ発表があった。

(株)イトーキは1890年(明治23年)創業と歴史も古く、 品質管理の歴史も1964年JIS認可工場、1989年TQC デミング賞実施賞受賞、1994年TPM優秀賞受賞、 1998年ISO14001、1999年ISO9001も認証取得され、 2008年にはTPSを導入されている。長年にわたって、 品質・安全・環境・生産性改善に、そして人材育成に 取り組まれているのがわかる。 「品質」についての発表では、過去のクレームを解析し、変更点管理、「3H管理活動」の推進で、確実に成果をあげられているのがわかり、大変参考になった。ちなみに、3Hは「はじめて」「ひさしぶり」「へんこう」の頭文字である。また、「生産性向上」についての発表では、小集団活動により、工程の稼働負荷の違いをなくし、要員の適正化を図った事例が紹介された。

発表後、3班に分かれて工場を見学した。整理整頓 清掃が行き届いており、見学中は従業員の方の気持ち よい挨拶を受けた。3Sとして「身の丈にあった」改善 活動から始めたという説明が印象的であった。

現場には「品質道場」なるコーナーが設けられ、そこでは限度見本が掲示され、品質管理の初期教育に活用しているとの説明があった。また現場には要所・要所に掲示板があり、品質・安全・環境・生産性改善に、そして人材育成の情報の見える化が図られていた。実際に掲示された帳票が拝見でき、大変勉強になった。

最後になりましたが、ご多忙の中、ご対応していた だきました(株)イトーキの関係者の皆様に厚く、感謝申 し上げます。 高馬 勇((株)タクミナ) 第392回中部 事業所見学会 ルポ

OKB大垣共立銀行 ドライブスルーながくて出張所、 OKB Harmony Plaza 名駅

去る平成29年2月14日火のKB大垣共立銀行ドライブスルーながくて出張所(愛知県長久手市)とOKB Harmony Plaza 名駅にて『サービスの真髄』をテーマに開催され、20名が参加されました。

OKB大垣共立銀行は、明治29年3月に第百二十九国立銀行の業務を継承して創立し、創立当時から育まれた「地域とともに」「お客さま目線」の精神を変わることなく実践され、平成28年3月で創立120周年を迎えた会社です。また、20年前の創立100周年時から銀行の枠を抜け出して「サービス業」として、お客様に喜んで頂くために様々な商品・サービスをお届けしています。見学場所のドライブスルーながくて出張所は、年中無休窓口営業のエブリデープラザとして平成25年4月にオープンした"全国金融機関初"の「ドライブス

ルー店舗」で、雨の日やお子さま連れでも車に乗ったまま窓口やATMを利用でき、「記入レス」「印鑑レス」による新しい窓口受付を実現した店舗です。

今回の見学では、ドライブスルーの特色である「お客さまの車に合わせて窓口・ATMが移動する昇降・幅寄せ機能」を実演頂きました。また、お客さまの思いをカタチにした移動店舗「OKBスーパーフロンティア号」の車内を見学し、移動店舗のサービス内容を説明頂きました。OKB Harmony Plaza 名駅に移動後、サービスの真髄の考えから実現させた取り組み事例として、異業種研修、地方創生、OKB 45をご紹介頂きました。銀行業の常識を覆すような提案を社内で議論され、実現している状況が手に取るように感じられました。質疑応答では、OKB 45メンバー選出についての質問があり、OKB 45メンバーご本人からご自身の体験も交えてご回答して頂けました。

最後に、OKB大垣共立銀行様にはご多忙中にもかかわらず、丁寧なご説明と見学の機会を賜り、心より感謝申し上げます。 米津 光輝(トヨタ紡織㈱)

2017年2月の入会者紹介

2017年2月8日の理事会において、 下記の通り正会員3名、職域会員1名の 入会が承認されました。

(正会員3名) ○川原 康弘(コスモス· コーポレイション) ○大山 是夫(豊 田自動織機)○松岡 朝日子(イトーキ)

(職域会員1名) ○中村 裕介(アスモ)

正 会 員:1920名

準 会 員:52名

職域会員:43名

賛助会員:143社188口

公共会員:17口

詳細·申込:http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290527_2

●第112回QCサロン (関西)

テーマ: 積水化学グループにおけるモノづ くり教育研修体系の再構築と推進

ゲスト: 笘 拓朗氏 (積水化学工業) 日 時: 2017年6月7日(水19:00~20:30

会場:新藤田ビル11階研修室 (日科技連・大阪事務所)

参加費:1,000円(含軽食・当日払い)

申込先: 関西支部事務局

詳細: http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290607

●第103回クオリティトーク(本部)

テーマ:発見力

ートヨタで学んだ"発見"をGD³ 問題解決プロセスに展開ー

ゲスト: 吉村達彦氏

(GD³コンサルティング)

日 時:2017年6月15日休18:30~20:50 会 場:日科技連東高円寺ビル5階研修室

ム場・自行及建木同门守己がら間が

定 員:30名

参加費:会員3,500円 非会員4,500円 準会員・一般学生2,500円 (含軽食・当日払い)

申込先:本部事務局

行事案内

●第113回研究発表会(本部)

日 時:2017年5月27日生)

会場:日本科学技術連盟東高円寺ビル

プログラム :

10:00~11:00

チュートリアルセッションA 「品質・安全問題と信頼―信頼を得るとき、信頼を失うとき―」 伊藤 誠氏 (筑波大学)

11:00~12:00

チュートリアルセッションB 「ビジョン達成に向けた独自のTQM推進」 米岡俊郎氏(トヨタ自動車九州)

12:00~13:15 昼食休憩

臨時総会(12:00~12:30)

13:15~17:45 研究発表会

18:00~19:45 懇 親 会 参加費:(懇親会以外の当日払いは別金額)

チュートリアルセッション・研究発表会

会 員 6,480円 (締切後 7,020円) 非会員12,960円 (締切後14,040円)

準会員 3,240円・一般学生4,320円

研究発表会のみ

会 員 4,320円 (締切後 4,860円) 非会員 8,640円 (締切後 9,720円) 準会員 2,160円・一般学生3,240円

懇親会

会 員・非会員 4,500円 準会員・一般学生2,500円

申込締切: 2017年5月17日(水)

詳 細: http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290615

●第163回シンポジウム (関西)

テーマ:現場に役立つビッグデータ活用方法 日 時:2017年6月20日火13:00~17:00 会 場:大阪大学中之島センター10階

佐治敬三メモリアルホール

プログラム :

講演1「なぜ企業はデータ分析を活用できないのか?」 河本 薫氏(大阪ガス)

講演2「サービス業におけるビッグ データの活用」

新村 猛氏

(がんこフードサービス)

パネルディスカッション

司会:猪原正守氏

(大阪電気通信大学)

参加費:会 員4,000円 非会員6,000円 準会員2,000円一般学生3,000円

※当日払い

申込先: 関西支部事務局

詳 細: http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290620

●第131回講演会(関西)

テーマ:新製品開発を巡るグローバル レギュレーションに関わる我 が国企業の課題

日 時:2017年7月20日休13:15~16:55 会 場:大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール

プログラム:

講演①: 『F1レギュレーションと技術の変遷』 田中尋真氏(本田技術研究所)

講演②:『食品新素材の開発と国内外 のレギュレーション対応』

栗木 隆氏(江崎グリコ)

参加費:会 員4,000円 非会員6,000円

準会員2,000円一般学生3,000円

※当日払い

申込先: 関西支部事務局

詳 細: http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290720

●第162回シンポジウム(中部)

テーマ:IoT時代の「つながる工場」に おける生産性向上と品質管理 〜生産システムの流れを理解し、 どのようにIoTを活用するのか〜

日 時:2017年7月31日(月)12:45~17:00 会 場:名古屋工業大学 4号館ホール

定 員:180名

プログラム:

基調講演:「IoT時代の『つながる工場』 の動向」

日比野浩典氏(東京理科大学)

事例講演①「IoT時代の製造業の国際 動向と、過去・現在・未来に わたって『みえる』生産技術」 野中洋一氏(日立製作所)

事例講演②「IoT時代のプレス機とパネル搬送装置における予知保全ーIVI『つながる工場』活動の事例-」

森健一郎氏 (オムロン)

参加費:会 員4,320円 非会員5,400円

「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

準会員2,160円一般学生2,700円

申込先:中部支部事務局

●第114回研究発表会(中部)発表募集

日 時:2017年8月30日(水) 会 場:名古屋工業大学

申込締切:

発表申込締切:5月26日金 予稿原稿締切:7月21日金必着 参加申込締切:8月23日(x)

申込先:中部支部事務局

詳 細:http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290830

●第115回研究発表会(関西)発表募集

日 時:2017年9月15日金 会 場:大阪大学中之島センター 申込締切:

発表申込締切:7月6日休 予稿原稿締切:8月25日金必着

申込先: 関西支部事務局

詳 細:http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h290915

行事申込先

JSQCホームページ:www.jsqc.org/

本 部: 166-0003 杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内 TEL 03-5378-1506

> FAX 03-5378-1507 E-mail:apply@jsqc.org

中部支部: 460-0008 名古屋市中区栄2-6-1

RT白川ビル7階

日本規格協会 名古屋支部内

TEL 052-221-8318 FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

関西支部: 530-0004大阪市北区堂島2-4-27 日本科学技術連盟 大阪事務所内

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615 E-mail: kansai@jsqc.org

事務局からのお知らせ

「QMS有効活用及び審査研究部会 WG4 研究報告書 QMSの自己適合宣言の研究」頒布のお知らせ

この度、標記の成果が本学会の研究成果としてまとめられましたので、ご希望の方に実費で頒布いたします。

1. 申込方法: E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、 所属、送付先住所、電話番号をご連絡の上お申し込みく ださい。

申 込 先:本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

2. 資料代:1冊(A4判74頁)会員1,250円、非会員1,806円、QMS

(税別) 部会員は1冊目に限り926円。

送 料: (冊子小包) 1冊300円、(DM便) 1冊170円、他多数の 場合、事務局までご連絡ください。申し込みと同時に下

記宛お振り込みください。

振 込 先:一般社団法人 日本品質管理学会 フリガナ:シャ) ニホンヒンシツカンリガッカイ 三菱東京UFJ銀行 渋谷支店 普通預金 4313820

資料は入金を確認の上、郵送いたします。